

Health Protection Agency

携帯電話使用と関連した脳腫瘍リスク:INTERPHONE 国際症例対照研究の結果

非電離放射諮問部会 (AGNIR) の声明

健康防護庁 (HPA) に報告するため、独立の非電離放射諮問部会 (AGNIR) は INTERPHONE 研究のレビューを行った。

本声明は、INTERPHONE 研究グループメンバーとして、参考論文の著者である Swerdlow ならびに Feychting 両教授を除いた、AGNIR のメンバーの集約された見解から作成されている。Swerdlow と Feychting の両教授は声明の作成と合意に関与していない。

AGNIR は、INTERPHONE 研究の主な結果を取りまとめた、この新しい報告書を歓迎する。

INTERPHONE 研究は、よく設計され、注意深く実施され、そして携帯電話使用によって考えられる健康リスクについて我々が理解するのに重要な貢献を行った。多くの疫学研究、特に複雑な過去のばく露を記憶からの想起に頼る症例対照研究と同様に、結果の解釈には不確かさがある。しかし、報告書ではかなりの長さで議論を行った不確かさよる限界の範囲内において、研究結果は、ハザードについて何ら明らかな証拠、または強い示唆的な証拠さえ示していない。さらに言えば、もし携帯電話使用により脳がんや髄膜腫のハザードがいくらかあるとしても、使用してから最初の 10-15 年間のリスクは小さいに違いない。

結論は、携帯電話の使用と脳腫瘍との関係を調べた他の疫学研究の知見、また実験動物が実験的にラジオ周波数放射にばく露された時のがん発症に関して実証可能な影響の証拠がないことと一貫性がある。

携帯電話は、わずか 20 年以下の期間で、世界中で用いられるようになってきたことから、INTERPHONE 研究は健康への、より長期間のリスクの可能性に取り組むことはできなかった。技術が桁外れのスケールでとりいれられてきたことを考えると、できるだけ早い段階で何らかの悪影響を検出するために疫学的な監視を継続していく必要性があろう。最近始まり、移動通信と健康に関する研究 (MTHR) プログラムの一部として英国で資金提供された COSMOS 研究がこの必要性に寄与するであろう。

同時に、AGNIR はラジオ周波数放射の健康リスクについてより広範なレビューを現在計画しており、これには INTERPHONE 研究の結果も考慮に入れて、2003 年に行った最後のレビュー以降に発表された関連する他の研究も加える。新たなレビューはこれから 12-24 カ月で完成することが期待される。

最終校正 : 2010 年 5 月 25 日

版權 : Health Protection Agency 2010